

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く (68) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(68)—

1. 始めに

前報(67)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノ三重奏曲です。

hyperion A66148

モーツアルト **Trio in G major**

Trio in E major

リンダ・ニコルソン (ピアノフォルテ)

モニカ・ヒューゲット (ヴァイオリン)

ティモシー・メイソン (チェロ)

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

hyperion 盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。The London Fortepiano Trio というグループの演奏で、使用楽器の Fortepiano は1797年のもの、Violin はストラディヴァリウスの模作品、Cello は1690年のものと書かれています。

現代ピアノとは一味違った Fortepiano のおっとりした音でゆったりとした演奏に、恐らくはガット弦の Violin と Cello のノンヴィブラートの音が絡み合って優雅な雰囲気醸しだしており、モーツアルトの時代のオリジナルの演奏はこのようなものであったという印象を与えています。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、フォルテピアノとガット弦のヴァイオリンとチェロが醸し出すモーツァルトの時代の演奏を現しているであろうことが分りました。

以上